



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/> ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

ユニオンユースアカデミー2017

「人間らしく働かってなに？」～若者憲法集会労働問題分科会～



ユニアカ 2 日目は若者憲法集会に合流し、全労連青年部と首都圏青年ユニオン、全商連青年協が共催で企画した労働問題分科会「人間らしく働かってなに!？」に参加しました。憲法で保障されている人間らしく働くこととは何なのか。雇用や暮らしで起きている問題の原因を学び、150 人が集まりました。

分科会ではパネルディスカッションが行われ、中村文美さん（パート主婦）、越後谷尚さん（元シナノ出版執行委員）、栗原耕平さん（首都圏青年ユニオン）、佐々木亮さん（弁護士）が登壇しました。

中村さんは、大学卒業後、就職した企業で 1 日 12 時間もの長時間労働を強いられ、過労発作を発症。6 年たった現在でも体調は回復していません。「普通に働くことができなくなったことで、社会からの疎外感を感じ悔しさとうしろめたさで自分を追い詰めていた。転機になったのは政治に関心を持ったことだ。特定秘密保護法反対のデモに行ってみて、日本の政治が本当にやばいことになっていると気づいた。以降、市民運動に参加するようになり、それまで自分に向かっていた悔しさの矛先が政治や社会制度に向き、もっといい世の中に変えたいという前向きな活動をする力の源になった」と運動に参加することで変わっていった自分を語りました。

越後谷さんの勤めるシナノ出版では、低賃金・長時間労働に加えて残業代未払いが常態化していました。そのため、従業員の定着も悪い職場でした。こうした事態を改善するために労働者が立ち上がり労働組合を結成しました。「私の闘いは、健全に働ける職場づくりというありふれた願いから始まった。労働組合ができる前の職場は長時間働くのが当たり前だったが、限界を感じたのは隔週土曜出勤が決定された時だ。平均残業が 72 時間を超えていたため、土曜日まで出勤となれば体を壊す未来しか見えなかった。労働組合をつくったのは現状を変えることができる希望が見えたから。仕方がない、どうせ変わらないと思い込み、何もしなかったら憲法は機能しない」と声を上げて戦うことの大切さを語りました。





栗原さんは現在大学4年生です。首都圏青年ユニオンの活動に参加しながら、労働組合や労使関係について学んでいます。「中学・高校のころは競争を強いられているようでテスト勉強が嫌いだった。また、部活の後輩が今でいうブラックバイトの被害にあっていた。社会に出れば、成果を求める競争に否応なく参加しないとイケない。そのことがブラックな働き方の背景にある。だから、労働組合の可能性を感じ、青年ユニオンの活動に参加している。3.11以降の運動の盛り上がり、SNSの発達で市民運動は変化している。職場の問題を市民社会の問題にしていくことのできる時代だ。企業別にとらわれるのではなく

業種別に運動を展開していくことの必要性が増している」と新しい運動の発展に向けた展望を語りました。

3人の発言を受けて佐々木さんは、「労働問題に対する認識は全体としてみればまだ広がっていない。かつては、シフト外しなど働かせないようにすることが問題視されたこともあった。しかし、今は働くことを強いられることが問題になっている。根本にあるのが政治の問題だ。労働問題は法律で解決することができるが、国会では労働者にとって有利な法律がつくられていない。現状を打開するには憲法を使うしかない。憲法で保障されている労働者の権利が守られた働き方を求め続けていこう」とパネルディスカッションをまとめました。

「憲法変えるな政治を変えろ」～若者憲法集会

分科会終了後、全体集会が行われ石川康弘さん（神戸女学院大学教授）が講演を行いました。石川さんは、「いま多くの若者が新しい政治を求めている。それは、憲法を活かす政治のことだ。社会には生きにくさはあるものだ。それを解決するのが政治の役割だ。しかし、今の安倍政権の政治は国民のことは考えていない。それは、大企業・財界優先である点。アメリカへの従属。政治家の思想性。そして、主権者である国民の力が弱いことが原因だ。しかし、市民運動の盛り上がりは、民主主義や国民主権を確立を目指して日本全体が急速に成長していることの表れだ」と日本社会の希望を語りました。その後「憲法と私」をテーマに全国の青年が訴え、全体集会は終了。デモ行進へと移動となりました。



言いたいことを心から叫ぶ～憲法変えるな政治を変えろデモ～



「憲法変えるな政治を変えろデモ」には約1800人が参加しました。デモは新宿駅周辺を約5キロ、サウンドカー3台、4梯団で大いに盛り上がり、「参加できない人ともプラカードを一緒につくってきた」と独自のプラカードを持参する参加者がいるなど、「許せない」「反対」という意思表示に加えて参加者それぞれの要求や臨む社会のあり方を積極的に表現されていました。参加者からは「言いたいことが言えた」「心から叫ぶことができた」といった声がきかれました。

